教育

みかわ

第134号

副会長挨拶
三河女性管理職者会会長挨拶
総務委員会
研究大会・研修会等の報告
今後の研究大会・研修会等のご案内
三教研ホームページのご案内

三河教育研究会　令和３年10月１日

不自由を常と思えば不足なし

三河教育研究会　副会長　**伊豫田　守**

令和三年度の折り返しの時期となりました。相変わらず新型コロナウイルス感染症に振り回される状況が続いています。しかし、昨年度とは違い、長期の休校もなく、様々な不自由はあるものの学校での教育活動は進められています。

徳川家康公遺訓に

「不自由を常と思えば不足なし」

という一節があります。新型コロナウイルス蔓延以前の状況に比べると、今は、とても不自由です。収束時期の目途も立たず、収束後に不自由さが解消されるという保証もありません。そんな先の見えない中ですが、子供たちの学びを止めるわけにはいきません。そのために、私たちは、不自由な状況を当たり前のこととして受け入れ、今できる精いっぱいのことを行っていくしかありません。

現場では、感染対策をしつつ、教育効果を上げるための様々な工夫が見られます。授業では、学習形態を変えたり、タブレットを活用して意見交流をしたり、履修順を入れ替えたりしています。また、行事では、分散開催をしたり、方法や内容を変更したりしていますが、知恵を出し、工夫して子供の学びを保証しています。

折しも、昨年度は小学校で、本年度は中学校で新学習指導要領が本格実施となりました。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が進められています。そのための私たち自身の学びも、止めるわけにはいきません。

三河教育研究会は、本年度の方針として、新型コロナウイルス感染症に十分配慮しつつ、活動を可能な限り実施していくということを示しました。これを受け、多くの部会・委員会が、夏季休業中に研修会を実施しました。実施に当たっては、感染対策を行いながら、研修効果が確保されるよう様々な工夫がなされました。不自由さを受け入れ、不満を言うことなく、諦めることもなく、何とか実施しようとするたくましさを感じます。また、実践報告では、学びを止めない先生の姿、学びを諦めない子供の姿を知ることができ、力をもらうことができました。

今、こういう状況だからこそ、不自由を常と思い、不満を言うことなく、そして、諦めることなく取り組んでいく先に、今までにない新しいものを見つけられる予感がします。

学校で育つ子どもの心

三河女性管理職者会　会長　**澤田　佳予子**

令和三年度の夏休み、たまたま登校してきた中学三年の生徒たちと話す機会がありました。

「学校は、勉強以外にも学べることがたくさんある。」「友達に会うたびに、こんないいところがあるんだという発見がある。」「だからやっぱりみんなに会いに学校に来たい。」

目を輝かせて語る生徒たちとのおしゃべりは、私の心を温めました。「コロナ禍」の下、生徒たちはそのいかんともしがたい状況を受け止めながらも、下を向いてはいません。伸びよう伸びようと顔を上げています。

義務教育期にある子どもたちの「成長」を考えるとき、その自我の形成をいかに充実させていくかが重要であると感じています。教科学習を通して得る知識・技能は、それのみではその子が生きていく力にはなりません。人とのかかわりの中で、対話を通して試行錯誤する過程が、その子のものを見る目を鍛えます。そして、その子を人として形づくっていくものの見方・考え方を醸成します。

また子どもたちにとって友達は、自分のよさを確かめたり、足りなさを振り返ったりする鏡になってくれる存在です。友達に「あなたの〇〇なところがいいね」と認められたとき、子どもたちは大きな喜びと、さらによりよい自分になろうとするエネルギーを得ます。このように考えると、友達とかかわって過ごす時間と場所を約束する学校は、子どもたちの成長に欠かせないステージなのです。

令和三年度は、日々の授業や部活動を続けることができ、夏の大会も実施できました。三年生の生徒たちはそのことに「感謝している」と言います。そして、友達とともに喜び合いたい、熱くなりたい、だから「行事をしたい」と願っています。学校でなければ経験できない、友達と心の深いところで結ぶ絆。それにより自分という存在をしっかりと肯定できたとき、これからの人生にあるかもしれない困難や悲しみを越える力となっていくことでしょう。その大きな価値を思うと、むやみには行事を中止にできません。何がどのようにやれるか、叡智を絞り出す学校でありたいと思います。

冒頭の生徒が言いました。「学校でみんなと過ごす空気が好き。」「だから、オンライン授業じゃだめなんです。」

コロナに負けず、三河教育を推進

―令和三年度　研究大会・夏季研修会等を終えて―

総務委員会

総務委員会では、五月十九日の定期総会（紙上開催）以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度は、コロナ禍ではありましたが、感染症対策をした上で、夏季休業中に十五の研究大会・研修会等が開かれました（紙上開催等含む）。子どもを中心に据え、主体的に学ぶことができる授業を目指し、活発な議論が展開されました。秋以降にも七つの研究大会等が計画されています。今後も感染状況を鑑みながら、開催してまいります。

また、授業力養成講座Ⅰを西三河は八月二十四日に刈谷市中央生涯学習センターにて、東三河は八月二十五日に新城文化会館にて開催しました。合わせて約百名が集い、熱心に研修が進められました。

研究大会や研修会、授業力養成講座等での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会等の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

研究大会・研修会等の報告

国語

言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業

令和三年度　国語部会夏季研修会
期　日　八月六日（金）
場　所　岡崎市民会館
参加者　一八七名

岡崎市民会館にて、七つの分科会に分かれて研究協議を行いました。

各分科会では、研究テーマ「言葉に対する見方・考え方を広げ、学び合い、深め合う授業」に沿った実践について提案がなされました。協議会では、子ども同士が互いに深く学び合う授業づくりをどのように行うべきか、提案者の確かな実践をもとにして、活発な議論が展開されました。

「中学校・読む」では、「描写を抽象化・構造化して主題に迫り、自己の生き方について考えを深める生徒の育成～中学三年国語科　魯迅『故郷』の実践を通して～」という研究主題での実践について提案されました。目指す生徒の姿に迫るために、知的構成型ジグソー法を土台とし、本文を根拠にして考えをもつことができるよう、思考ツールなどを用いる実践でした。思考ツールの一つであるクラゲチャートを活用することによって、生徒たちは、根拠となる叙述をもとにして、自分の考えを深める姿が報告されました。

熱心に提案を聞く参加者

最後になりましたが、本研修会を支えてくださった岡崎・幸田地区の先生方、提案・助言・司会の先生方に心より感謝申し上げます。

◇◇◇

学びある一日

碧南・西端中　岡本　侑馬

分科会では、「中学校・書く」に参加しました。実践では、対話を通して考えを深めることで、より説得力のある、伝わりやすい文章を書くことができた生徒の様子が見られました。

授業を行うときに、テーマを与えて文章を書かせて終わりにするのではなく、どうしたら生徒がよい文章を書けるようになるかを考え、手だてを講じていきたいと思いました。

協議会では、先生方の意見を聞くことで、新たな視点をもつことができました。今回学んだことを一つでも多く実践し、生徒の力を伸ばしていきたいと思います。

書写

令和三年度　書写実技講習会
期　日　七月三十日（金）
場　所　岡崎市東部地域交流センター
　　　　むらさきかん
参加者　四十二名
講演会　「文字学」紹介
講演・実技講師　岐阜女子大学教授
　　　　中根　海童　先生

「できる」「わかる」喜び

蒲郡・三谷中　鈴木　基史

前半は、「文字学」について講演をしていただきました。私たちの身近にある漢字がどのような意味をもってできたのかを知ることができました。後半は、書き初めの実技講習を行いました。「穂のS字形」、「背中の線」の作り方を教えていただきました。実際に筆で書くことで、生徒と同じ目線に立つことができました。自分の書く点画が明らかに変わっていくことを実感し、非常にうれしく思いました。また、添削をしていただいたことで、運筆に対する課題も見つかりました。

今回学んだ書道の楽しさを生徒たちに伝え、今後の書写指導の場面で生かしていきたいです。

書写実技に取り組む様子

社　会

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業（四年次）

令和三年度
　愛知県社会科教育研究大会
期　日　八月二日（月）
場　所　蒲郡市民会館
参加者　二二〇名
講演会「社会科の基礎・基本－
　　　『参画』できる授業」
講　師　愛知教育大学教授
　　　　　土屋　武志 先生
分科会　小学校　五分科会
　　　　中学校　一分科会

三河と尾張によって隔年で開催されている愛知県社会科教育研究大会が、八月二日に蒲郡市民会館で開催されました。当日は、三河地区全域ならびに尾張地区からも多くの先生方を迎え、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会では、土屋武志先生をお招きし、本会の研究主題と関連して、社会参画を歴史学習において具現するため、「当時の人の立場」と「現在の私たちの立場」からの解釈を比較して考えることの有用性についてお話していただきました。「一人ではできない社会の仕組みをみんなで考え、自分ができることをみんなで考える」という発想は、わたしたちが今後の社会科の授業を構想する上で、大切にしていかなくてはならないものであると実感しました。

講演会の後は六つの分科会に分かれ、五地区の実践が提案されました。土屋先生も参観され、質疑・応答が活発になされていることに感心しておられました。

わたしたち社会部会は、今回の愛知県社会科教育研究大会や第十五期研究主題の研究成果と課題を踏まえ、来年度新しく研究主題を立ち上げて今後も研究に取り組んでまいります。

講演される土屋先生

最後に、来賓の皆様をはじめ、分科会の内容を深めていただいた助言者の先生方、並びに関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げます。

◇◇◇

歴史学習と社会参画

豊田・竜神中　平岡　章宏

歴史学習は、社会科の三つの分野の中で最も生徒の生活と結びつけにくいものだと思います。そのため、今回発表した実践では、単元の導入で現在の新型コロナウイルスの問題を取り上げ、未来の教科書に載るなら何を伝えたいかについて考えました。これが、過去の社会的事象を身近なこととしてとらえることができるきっかけとなりました。生徒たちが、奈良時代の疫病と現在のコロナ禍とを比較しながらその共通点や差異を見い出す姿は、歴史学習における社会参画を具現する姿であったと感じました。

算数数学

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた算数・数学教育の実践（二年次）

今年度、左記のように計画していましたが、冊子による発表・開催となりました。大会冊子は、十一月九日より、大会ホームページからダウンロードが可能となります。

（大会ホームページ）
https://tousuiken.sankyouken.jp/

東海地方数学教育会
　第六十八回研究（愛知）大会
場　所　愛知教育大学附属岡崎中学校
　　　　　　　　　　　　他五校
講　師　帝京大学大学院教授
　　　　　清水　静海 先生

算数数学部会では、昨年度よりテーマを「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた算数・数学教育の実践」と設定しています。新学習指導要領が掲げる三本の柱について、その資質や能力を育むためには「主体的・対話的で深い学び」のある授業が必要不可欠であり、三河地区全体で算数・数学のよりよい授業づくりについて考えていきたいという思いが込められています。

東海地方数学教育会第六十八回研究（愛知）大会では、午前に、岡崎市立六名小学校・竜美丘小学校・城南小学校・竜海中学校・愛知県立岡崎高等学校で計十本の公開授業と協議会を、午後に、東海三県の三十六名の先生方からの提案をもとに協議を行う分科会を計画していました。また、講演会では、帝京大学大学院教授の清水静海先生をお招きして、「算数・数学教育の期待されていること」についてご講演をしていただく予定でした。

今年度は、感染拡大防止のために、冊子による発表・開催となりました。大会冊子については、十一月九日より、大会ホームページからダウンロードが可能となります。三河地区からは、豊橋・高豊中　福田勝顕先生、岡崎・竜美丘小　宮森千尋先生、豊田・畝部小　木津義博先生に提案をしていただきます。木津先生は、「算数のよさを実感し、学びを生活に生かそうとする子ども」を目ざして、「整数」の実践に取り組まれました。ゲームのきまりを見つけることで効率よく問題解決できる算数のよさに気づいたり、既習事項を生かした問題作りを行うことで生活場面に算数の学びを生かせることに気づいたりすることができました。

提案へのご意見・感想については、大会ホームページのお問い合わせフォームからお願いします。多くの先生方から、それぞれの提案について忌憚のないご意見をいただけると幸いです。算数・数学のよりよい授業づくりについてみなさんで考えていくことができる機会になればと思っております。

今後は、第三回委員会議を十一月に開催し、各地区の活動報告や、来年度の夏季研修会のもち方等について協議する予定です。今年度取り組めなかったことを更に充実した形で実践できるように取り組んでまいります。

理科

自然事象を主体的、協働的に追究し、
豊かな心と創造力を培う理科学習

令和三年度
愛知県小中学校理科教育研究発表会
期　日　八月三日（火）
場　所　へきしんギャラクシープラザ
（安城市文化センター）
参加者　二二七名
講演会　「理科教育× 笑い＝∞
～エデュテイメントで授業革命!?～」
講　師　大阪成蹊大学教育学部准教授
福岡　亮治　先生
分科会　小学校下学年　上学年
中学校

講演会では、子どもたちが遊んでいる、楽しんでいるうちに、自然と知識がついていく「エデュテイメント」について、ご示唆いただきました。授業のなかに、クイズを取り入れるなど、子どもが脳内で議論・検討する問いを散りばめ、「思考して問いをもち続ける」環境をつくることで、子どもたちの「わかった」「伝えたい」という思いを高めることが主体的・対話的な学びにつながっていくとお話しいただきました。また、誰でも楽しんで学べるという観点から、ユニバーサルデザインの視点も大切で、子どもたちが視覚だけでなく、その他の諸感覚を使うことで、理解を深めていく授業を目指していくべきだと教えていただきました。新たな指導方法を導入するのではなく、既存の授業方法をエデュテイメントやユニバーサルデザインの視点で見直していくことが「主体的・対話的で深い学び」の実現につながると、ご講演いただきました。参加者からは、「すぐにエデュテイメントを取り入れた授業を実践したい」という声がありました。

講演される福岡先生

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中学校の部会において、それぞれ二地区の提案をもとに活発な協議が行われました。参加者からは「二学期の単元づくりの参考にしたい」などのご意見をいただくことができました。

研究発表会を終えて

安城・明祥中　丸山　祐也

助言者の先生をはじめ、安城市理科部の先生方に教材研究・単元構想の段階から授業実践、発表の原稿づくりまで、ご支援、ご助言をいただきました。実践を通して、子どもの思考の流れに沿った単元構想のつくり方、その単元の軸となる教材研究の仕方などを学ぶことができました。また、理科を愛し、授業を通して、子どもを伸ばしたいという思いをもっている先生方が多くいらっしゃることに気づき、協議できたことが財産です。講師の先生のお話や分科会で提案された先生方の実践や協議内容を、これからの自分の実践に生かしていきたいと思います。

音楽

「響き合う　心と音楽」
～なかまとかかわり合い、
豊かな音楽表現を目指して～

今年度、左記のように計画していましたが、来年度に延期としました。

令和三年度
音楽部会夏季研修会
場　所　知立市リリオコンサートホール
講　師　名古屋音楽大学客員教授
鍵盤ハーモニカ奏者・作曲家
松田　昌　氏

今年度も昨年度に続き、委員会議や研修会は開催中止となりました。各地区の先生方と直接意見交流することはできませんでしたが、第二回委員会議は、紙上提案という形で、各地区における音楽教育活動の実態と課題が報告され、情報交換をすることができました。

どの地区においても、コロナ禍において制限される音楽活動に日々苦労され、試行錯誤しながら、子どもたちのために授業に取り組まれている様子がわかりました。

リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの器楽演奏の代わりに、キーボードやハンドベル、打楽器による器楽合奏を行ったり、ボディパーカッションを取り入れたりするなど、子どもたちがのびのびと音楽活動に取り組めるような工夫をしている学校が多くありました。歌唱活動では、マスクを着用しながらでも歌えるように、ハミングによる音取りや、タブレットの録音機能を使った個人での発声練習や歌唱練習、楽曲分析を中心に取り組んだ学校もありました。全校や学年での合唱は困難な状況のため、動画編集による発表を行った学校もあり、コロナ禍でも一体感や充実感が得られる音楽活動になるように創意工夫されていることがわかりました。また、一人一台のタブレットの導入により、アプリを活用した創作活動の実践が紹介されていたり、研修会を予定されていたりする地区も多くあります。

そこで、音楽部会でも、コロナ禍だからこそできる音楽活動として、岡崎市教育研究所教育アドバイザー・名古屋芸術大学非常勤講師の和田実先生を講師にお招きし、「音楽科授業におけるタブレットの活用」をテーマにした研修会を二月に予定しています。学び多き場になるよう準備を進めています。

タブレットを使用して歌唱練習する様子

保健体育

仲間とともに課題を見付け、解決しながら学びを深めていく体育学習
（三年次）

令和三年度
保健体育部会夏季研修会
期　日　八月五日（木）
場　所　豊田市福祉センター
参加者　二四五名
講演会
「心に響くコミュニケーション　ペップトーク
～やる気を引き出す魔法の言葉～」
講　師　日本ペップトーク普及協会　代表理事
岩﨑　由純　氏

豊田市教育長の山本浩司様を来賓として迎え、開会行事を行いました。部会長や来賓の挨拶から、コロナ禍における体育の重要性、深い学びのある授業づくりを再確認しました。

講演会では、岩﨑由純先生より、ペップトークとは「短く、わかりやすく、肯定的な言葉を使い、魂を揺さぶり、人をその気にさせる前向きな背中の一押し」であり、聞く側をその気にさせることが大切であることを学びました。参加者の先生方からは、「相手の心に火をつけられるような話し方を心がけていきたい」という声が聞かれ、実りの多い講演会となりました。

講演される岩﨑氏

研究協議会では、岡崎・竜美丘小の加藤先生「運動の世界に浸りきり、見方や考え方を働かせるリズム遊びや体つくり遊びの実践」、豊川・金屋中の山形先生「課題を見つけ、解決に向けて主体的に活動することをねらったマット運動の実践」が提案されました。参加者は、自分の実践と照らし合わせながら熱心な討議を行いました。助言の先生からは、できる喜びを感じられる支援の方法や評価の仕方等、深い学びのヒントをご示唆いただきました。

最後に準備協力いただきました豊田・各地区運営委員の先生方、豊田市福祉センターの方々に深く感謝申し上げます。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

夏季研修会に参加して

豊田・足助中　森　喜嗣

日本ペップトーク普及協会代表理事である岩﨑由純先生のご講演から、学校教育におけるペップトークの可能性について学びました。ペップトークは、肯定的な言葉で短く話すことが特徴なのですが、私自身熱い思いから話が長くなることがよくあります。これからは、肯定的な言葉で端的に励ますことを心がけていきたいと思います。生徒たちには、自分に対して良い言葉を選んで意識的に言い続けることで、心の在り方を変えられる「セルフペップトーク」を取り入れていきたいと思いました。

中学校部会では、山形洋平先生の実践や参加された先生方のご意見をもとに、課題の設定に関することや苦手な生徒に対しての教師支援について協議しました。森勇示先生のご助言から、タブレットの有効な活用方法や評価に関すること、授業での体育教師の役割などについて学びました。今後に生かしていきたいです。

技術・家庭（中学校）

よりよい生活の実現と持続可能な社会の構築に向け、自ら工夫し創造する生徒の育成

令和三年度
技術・家庭部会夏季研修会
期　日　八月六日（金）
場　所　幸田町民会館
参加者　二五〇名（小・中合同）
講　師　愛知教育大学
特別教授　太田　弘一　先生
教　授　青木香保里　先生

はじめに専門班から、今年度より全面実施の新学習指導要領を踏まえた研究主題に関わる提案を行いました。これから進めていく研究の概要や手だてについて、理解を深める場としました。

その後、技術分野と家庭分野に分かれて分科会を行いました。技術分野では、蒲郡地区と豊橋地区に提案していただきました。いずれの地区も地域の特色を生かすことができる題材を用いて、子どもの思考を大切にした授業が展開されていました。また、参加者による情報交換の場も設定しました。地区や経験年数をもとにして、小グループに分かれ、日頃の授業での悩みを共有し、解決策について話し合いました。

分科会での提案の様子

中学校家庭分野では、刈谷地区と豊橋地区、小学校家庭科として、豊橋地区と幸田地区に提案していただきました。どの地区の実践も教科の見方・考え方を視点とした思考を深める単元構想や、教材・教具の工夫が見られました。

指導・助言では、愛知教育大学の太田弘一先生、青木香保里先生から、学習過程で基礎・基本をしっかりと位置づけることの大切さや時代の変化に合わせてどのような力を育んでいく必要があるのかなど、具体的なお話から多くの御教示をいただくことができました。

小・中合同で行った夏季研修会での学びが授業に還元されることを願います。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

夏季研修会に参加して

碧南・東中　村松庄大朗

豊橋地区・蒲郡地区の発表では、子どもたちが主体的に課題を追究し、深い学びができる流れを大切にした単元構想の工夫により、実際にものの製作や生物の育成を通して、子どもたちで考えを深めていく様子が伝わり、とても参考になりました。情報交換会では、他地区の先生方の授業の工夫や評価の仕方について意見交流することができ、貴重な機会となりました。今回の研修で学んだことを、これからの授業に生かしていきたいと思います。

特別活動

多様な他者と協働し、集団や社会に参画する力を高める特別活動

～自主的・実践的な集団活動を通して～（三年次）

令和三年度
特別活動部会夏季研修会
期　日　八月五日（木）
場　所　高浜市立高浜小学校
高浜市地域交流施設　たかぴあ
参加者　一五五名
講演会「積極的な特別活動が
もたらす働き方改革」
ー特活で子どもも先生も
どんどん伸びるー
講　師　東松山市教育委員会教育委員
城西国際大学兼任講師
稲垣　孝章　先生

講演会では、稲垣孝章先生より、どの子も安心して活躍できる集団づくりについて、実践例を挙げながらお話いただきました。「学級経営に対して、教員としての見方・考え方を改める機会となった」、「人と関わることの楽しさを教えていきたくなった」など、学級づくりに生かしたいという声が多く集まり、大変好評な講演会になりました。

講演される稲垣先生

講演会後は、小学校と中学校でわかれて分科会を開催し、四名の先生から提案をしていただきました。参加された先生からは、「特別活動による子どもの変容がよく伝わった」、「生徒会活動や学級会のアイデアなどを、解説を加えながら他の職員に広めたい」など、自身の活動を振り返り、今後の実践に役立てたいという感想が多数寄せられました。本会で共有できたことを生かし、子どもの成長につなげてほしいと思います。

本研修会を開催するにあたり、高浜小学校・高浜地区特活部の先生方に、たくさんの協力をいただきました。本当にありがとうございました。

◇◇◇

子どもの思いに寄り添う特別活動

岡崎・常磐中　宮澤　元紀

稲垣孝章先生のご講演を聴き、特別活動の原理とこれから求められる特別活動の在り方を改めて確認できました。教えていただいた話し合い活動のポイントや、グループ活動のアイデアを自身の実践に生かし、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向け積極的に特別活動を行っていきたいと思いました。

分科会では、子どもの「やりたい」という思いに寄り添って実践に取り組まれた先生方の熱意が伝わり、大変刺激を受けました。人との関わりを大切にし、子どもの主体性を引き出していけるよう、単元づくりに励んでいきたいと思います。

養護教諭

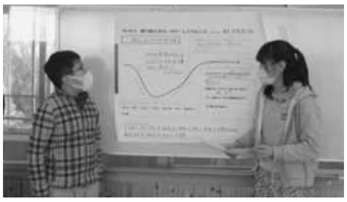
養護教諭の資質向上と健康教育の推進

今年度、左記のように計画していましたが、研究集録による紙面開催としました。

令和三年度
養護教諭部会夏季研修会
研究発表　みよし市養護教諭部会
北設楽郡養護教諭部会
調査研究委員会
講　師　愛知教育大学准教授
山田　浩平　先生

みよし市養護教諭部会は、「レジリエンスを高め、元気に学校生活を送ることができる子の育成―『生活習慣』と『人とのかかわり』を中心とした保健教育を通して―」と題し、研究を行いました。研究開始にあたり、東海学園大学の石田敦子先生、愛知教育大学の山田浩平先生にご指導を受け、レジリエンスには規則正しい生活習慣が欠かせないこと、「自己肯定感」「問題解決力」「対人関係力」「感情抑制力」の構成要素があることを学びました。

市全体では、中学校区の生活点検の実施や市内統一の保健だよりの発行を通して、家庭を巻き込んだ取組を行い、コロナ禍の臨時休校中も継続して啓発しました。



レジリエンスについて学ぶ子ども

各校では、自己肯定感を高める保健教育やレジリエンスの高め方を学ぶ学校保健委員会、生活習慣改善のための個別指導などさまざまな取組を行っています。

取組に関するアンケートの結果から、児童・生徒の自己肯定感が向上してきていること、生活習慣が整っているほどレジリエンスが高く、その状態を長く維持できることなどがわかりました。

北設楽郡養護教諭部会は、「対話を通して学びを深め、自分の健康観を育む子ども～養護教諭同士がつながり、共に授業力の向上を目指す取組を通して～」と題し、研究を行いました。

健康の大切さを認識する健康観を育む保健の授業づくりと、養護教諭が授業に取組みやすくなるサポート体制づくりを研究の二本柱として実践を積み重ねました。その結果、保健の授業に価値を感じ、学習したことを生活に生かす子どもが増えました。また、主体的・意欲的に授業に取組む養護教諭も増えました。

調査研究委員会では、「養護教諭が取組むがん教育の在り方」と題し、がん教育を行う上での問題点や課題を把握するために、がん教育実施の実態に関する調査を行い、その結果を分析し、報告しました。

各地区の発表と調査研究発表については、常任講師の愛知教育大学准教授の山田浩平先生から、紙面にてご助言及びご講評をいただきました。

学習情報

ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション

令和三年度　ＩＣＴ活用研究会
期　日　八月三日（火）
場　所　幸田町民会館
参加者　一〇八名
提案者および発表テーマ
①「田原市における『ＩＣＴ機器を活用した情報共有』と『授業実践』」
田原・田原中　鈴木　基紘　先生
②「個別最適化された学びを実現するためのＩＣＴの活用」
岡崎・大樹寺小　渡邉　智文　先生
③「他者と関わりながら、正確なアルゴリズムを作る活動を通して、プログラミング的思考を育む算数科の授業」
豊田・寺部小　稲井　大輔　先生
④「蒲郡市における『コラボノート』の効果的な活用について」
蒲郡・中部中　野川　雅基　先生
⑤「プログラミング的思考力の育成～６年総合的な学習の時間『みどりっ交流（スクラッチでゲームフェス）』を通して～」
みよし・緑丘小　前野　真也　先生
助言・講評
岡崎市立岡崎小学校　教頭
内田　雅之　先生

五つの地区からの提案では、子どもの実態に即したＩＣＴ機器を活用した授業実践が発表されました。発表後の研究協議では、発表者と参加者で意見交換が行われました。

助言者の内田先生からは、五つの提案それぞれに的確なご助言をいただきました。また、更なるＩＣＴ活用推進のために、最新の技術や動向に対して敏感であること、縦と横のつながりを大切にして、現場と行政をつなぐこと、個別最適化された学びや協働的な学びを創り出すための効果的な手段とすることについて、先進性、連携性、教科性、という三つのキーワードを挙げてお話をしていただきました。今後の実践に役立つ研修の機会となりました。

助言・講評をされる内田先生

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

タブレット端末の様々な活用について

蒲郡・中部中　野川　雅基

本研究会では、昨年度から本格的に導入されたタブレット端末を活用した実践が報告されました。

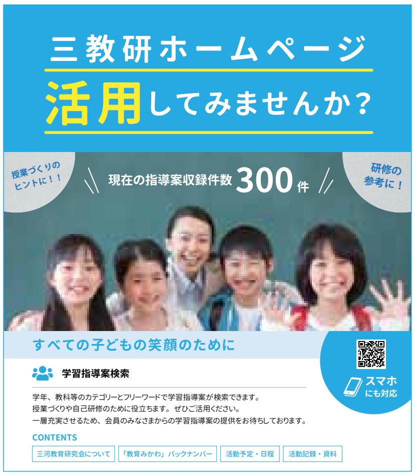
アプリを活用することで、自分と他の人の意見を共有し、話し合いを行ったり、単元テストを行ったりするなど、これまで知らなかった活用方法を学ぶことができました。また学習面だけでなく、行事の中継や教員のリモート研修など、様々な面で活用できることも知りました。

今回の実践で学んだことを市内の学校にも広め、より効果的な使い方を模索していきたいと思います。

今後の研究大会・研修会等のご案内

＊愛知県英語教育研究大会
10月26日㈫　安城市立安城西部小学校
安城市立安城西中学校
＊愛知県へき地教育研究大会
10月26日㈫　設楽町立名倉小学校
新城市立作手中学校
＊東海地方数学教育会
第68回研究（愛知）大会
11月９日㈫より紙面開催
＊愛知県統計教育研究発表会・講演会
11月16日㈫　愛知県図書館
＊愛知県道徳教育研究大会
11月26日㈮　名古屋市青少年文化センター
＊愛知県書写書道教育研究協議会
（令和４年）１月18日㈫　名古屋市教育センター分館
＊愛知県生徒指導研究大会
（令和４年）１月21日㈮　ウインクあいち

三教研ホームページのご案内


三教研ホームページ
活用してみませんか？
授業づくりのヒントに！！
現在の指導案収録件数 300件
研修の参考に！
すべての子どもの笑顔のために
学習指導案検索
学年、教科等のカテゴリーとフリーワードで学習指導案が検索できます。
授業づくりや自己研修のために役立ちます。ぜひご活用ください。
一層充実させるため、会員のみなさまからの学習指導案の提供をお待ちしております。
スマホにも対応
CONTENTS
三河教育研究会について　「教育みかわ」バックナンバー　活動予定・日程　活動記録・資料

三教研ホームページに関してのご意見を事務局までお寄せください。
アドレス：http://www.sankyouken.jp/

編集後記

八月末に緊急事態宣言が発出され、分散登校やオンライン授業が各地で実施されました。現在でも、学校での教育活動は、不便と不自由を余儀なくされています。

それでも本年度は、多くの部会・委員会が研究大会・研修会等を実施することができました。これも、部会・委員会の先生方が、何ができるのか、どうすればできるのか、常に前を向き、知恵を出し合い、工夫に工夫を重ねていただいた成果だと思っています。この姿勢や取組は今後の三河の教育活動を行っていく上での光明となったことは言うまでもありません。

ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

表紙の写真
春の遠足（地引網）
撮影　田原市立若戸小学校
池田　千浦　先生